

議会だより

News Letter From Hachijo Town Assembly



山本 忠志
公明党 1期



山下 巧
無所属 1期



小川 一
無所属 1期



浅沼 憲春
無所属 1期



沖山 恵子
無所属 1期



奥山 博文
無所属 6期



奥山 幸子
無所属 4期



岩崎 由美
無所属 2期



菊池 睦男
日本共産党 6期



山下 崇
自由民主党 2期

写真、右上より議席順



土屋 博
自由民主党 4期



水野 佳子
公明党 2期



小澤 一美
自由民主党 7期



山口 英治
無所属 6期

町民の代表14人が決定

新たな議会がスタートしました

第3回八丈町議会定例会

平成26年9月3、4日開催

第2回八丈町議会臨時会

平成26年10月28日開催

目次

- 新体制決まる 2P
- 正副議長、および委員会委員の選任 3P
- 一般質問 4P
- 視察報告 10P
- 定例会の質疑から 11P

新体制決まる

新議長就任あいさつ

八丈町議会議長

土屋 博

平素より八丈町議会の活動に対しまして、格別のご理解とご協力を賜っておりますこと心から感謝を申し上げます。

平成26年第二回八丈町議会臨時会におきまして、議員各位のご推挙により、第27代議長に就任することになりました。身に余る光栄であり、また、その使命と責任の重大さに身の引き締まる思いであります。

地方自治を取り巻く環境は大きく変化しており、地方分権の進展に伴い地方自治体の権限や役割が拡大する中で、町の意思決定機関である八丈町議会の果たすべき役割はますます重要となつていくところであります。

私たち議会議員の使命は、地域の実情をきめ細かく把握し、議会で提言し、そして町政に反映させることにより、八丈町民憲章にある、八丈町の限らない発展と、明るく平和なまちづくりをすすめることにあります。その使命を果たすために、議会の機能を最大限に活かしながら、さらなる議会の活性化を進め、従来の慣例にとらわれることなく、より一層の創意工夫と努力を積み重ねるとともに、行政当局との真摯な議論により、有効な政策を推進して諸課題の解決に全力を尽くしてまいります。

今後とも、町民の皆様のご指導、ご鞭撻を心からお願ひ申し上げます、就任のご挨拶いたします。



議長就任の挨拶

正副議長、および委員会委員の選任

10月28日(火)平成26年第二回八丈町議会臨時会において
正副議長、並びに各委員会委員の選任をいたしました。

議長 土屋 博
副議長 水野 佳子

◎常任委員会

総務文教委員会

消防、財務、税務、教育、社会福祉、保健衛生その他の委員会に属さない事項を扱う。

委員長 山下 崇
副委員長 山本 忠志
委員 沖山 恵子
浅沼 憲春
菊池 睦男
奥山 幸子
土屋 博

経済企業委員会

土木、産業、商工、観光、都市計画、水道、運輸、病院に関する事項を扱う。

委員長 山口 英治
副委員長 岩崎 由美
委員 小川 一
山下 巧
奥山 博文
小澤 一美
水野 佳子

議会運営委員会
定例会前に、議会を円滑に進めることを目的とした審議を行う。

委員長 奥山 博文
副委員長 奥山 幸子
委員 山下 崇
菊池 睦男
岩崎 由美
山口 英治
土屋 博

◎各種委員会

表彰審査委員会

奥山 博文
浅沼 憲春
山本 忠志
山口 英治
沖山 恵子

総合開発審議会

山下 巧
岩崎 由美
山本 忠志
山下 崇
沖山 恵子

災害復旧資金貸付審査会

浅沼 憲春
奥山 幸子

給食センター運営審議会

山下 崇
土屋 博

地下水保全審議会

岩崎 由美
小澤 一美

八丈富士牧野運営審議会

奥山 幸子
山口 英治
土屋 博

修景美化審議会

小川 一
岩崎 由美
奥山 博文
山口 英治
水野 佳子

青少年問題協議会

小澤 一美
土屋 博

国民健康保険運営協議会

沖山 恵子
小川 一
山下 崇
菊池 睦男

消防委員会

三根地域担当
大賀郷
檜立
中之郷
末吉

〃
〃
〃
〃

監査委員

小澤 一美

議会だより編集委員

山本 忠志
山下 崇
岩崎 由美
奥山 幸子

研修視察委員

小川 一
水野 佳子

山下 巧
浅沼 憲春
山本 忠志
山下 崇
沖山 恵子

温水プールを作り、ザ・BOONと連結を

答 厚生労働省の認可がおりない



山下 松邦 議員

◆所要時間 8分

緯もある。



置できればと思う。高齢者にとつては、プールの中を歩くだけでも健康に良いが、サウナや健康器具も使え、高台の景勝地となれば、精神的にも肉体的にも健康が増進する。増して、一年中となれば、八丈の健康ランドとして観光の大きな目玉になると考える。

答 福祉健康課長 尾越温泉のお湯をそのまま利用した温泉プールということであるが、厚生労働省の遊泳用プールの衛生基準の中で水質基準というものが示されている。その中で濁りの基準があり、その水質基準を満たしていないので認可がおりない。また、温泉プールの建設費用は、平成21年度の試算によると7から8億円かかるであろうとのことである。温泉資源を熱交換源として考えた場合、それ以上の経費がかかることが推定できる。従って、今後の検討課題になろうかと考える。

中之郷の裏見ヶ滝温泉は、この夏は大盛況で、駐車場に止めきれず車が道路にあふれているのを何度も見た。住民からは、「温水プールができれば住民の健康増進、観光集客に最高」との声を多く聞いた。温泉、ザ・BOONの北側に隣接する町有地は、高台で景観も良く、惚れ込んだ島外の有料老人ホーム会社が、5階の建物が建てられるのか調べたところ、土壌が軟弱で基礎打ちに経費が掛かり過ぎることと断念した経

緯もある。 図 ザ・BOONに隣接した高台の町有地に高い建物ではなく、基礎工事に経費のあまりかからない温泉プールを作り、ザ・BOONと連結したら如何か。そして、現在でもザ・BOONにはサウナとマッサージ機があるが、それにプラスしてリハビリ器具や健康器具を設



専門の部署を設け定住促進を

答 平成27年度、部署を設置したい



廣江才議員

◆所要時間 21分

この先、島民の人口の自然増が見込まれることはなく、数十年後は我が自治体の存続すら危ぶまれる状況にある。この件に関しては、過疎化の問題として度々議会でも取り上げられているが、この状況を町はどれ程の危機感を持って捉えているのか疑問である。無視しているとはいわないが「その動きは遅々として進まず」という感がある。魅力ある町づくりが定住者促進の唯一の方法であると考える。町はテーマを持つべき

きである。「日本で一番住み易い町」、「子育てのしやすい町」また「老後を安心して暮らせる町」とか、テーマはいろいろある。



町企画財政課だけで企画し分析遂行するには無理がある。そこで定住促進課というような専門の部署を設け、空き家、職業斡旋、企業誘致、国の機関の誘致等を一括して行うのもひとつの方法である。勿論、課の創設だけで解決する問題で

はないと理解している。しかし、優秀な人材で構成された部署を創設し、責任を持ち真剣に取り組むなら可能であると思う。但し、こうした点に町はNPOなどを頼る傾向があるが、むしろ手作りの町づくりを独自に思考するべきである。幸いこの島にはかなりの移住者が定住している。住民の意識や移住者の体験的実感を調査することは急務である。実態調査を行うことによって、その人たちの意見を積極的に受け入れ、町の方向性をしっかり据え、住み易い町づくりを目指すべきである。

町企画財政課長 今年度、全庁的な課題として取り組むため、企画財政課を中心とした庁内を横断したプロジェクトチームを設置した。移住者の実態調査や意見の聴取など、プロジェクトチームの中で行っていききたい。平成27年度、企画財政課内に定住促進と雇用対策を両輪で進める部署を設置したい。

新地熱発電所の進捗状況は

答 町と都が主体の委員会、商工会を中心とした協議会で進めている

ている。全てがリンクしている。この事業を再生可能エネルギー利用という面だけで捉えるのではなく、この町の将来にも拘わる重要な事業であるという認識で、具体化を急ぐよう願いたい。

鳴り物入りで始められたこの件に関して、どこか腰が引けているような実感がある。条例を設け、住民の意見を聴こうという姿勢は大事であるが、NPO団体等による遅延方針に町が踊らされているのではないかと危惧している。先日、彼らは、できる、できないは彼らの意ではないといったと思う。確かに彼らの役割はそうかも知れない。しかし、我々はプロセスではなく、結果を求めているし、求められている。新たな地熱発電所は必要であると考える。余剰熱による農業の促進など、夢のある事業が際限なく広がっている。そこには雇用も発生するし、島の人口問題の解決の糸口になる可能性も秘め

町企画財政課長 NPOとはきちんと役割分担をした上で実施している。また、町と都が主体の委員会、および商工会を中心とした協議会で関係者と各課題の検討を進めている。今年度中に2回、時期としては、年末と年度末に検討委員会を開催する予定。国や都と連携をとりながら、各種課題が解決できるよう着実に検討を進め、地域の合意を得た上で、地熱発電拡大を進めていきたい。

フリージアまつりの再評価と新たな対策を

答 今年はいんファイオラータを実施した



奥山 幸子 議員

◆所要時間 33分

48回を数えたこのイベントについて、廃止や見直しをすべきだという声が毎年上がっていたが、最近まつり会場は、休憩舎ができ物の販売も行われ賑わいをみせてきた。インファイオラータも好評であらたな局面を見せている。今、このイベントを再評価することが観光振興のために重要だ。同時に現状の課題を洗い出し、解決に向けた努力も必要だ。フリージアは、香りが強く色のバラエティがあり他の花に代えがたい魅力

がある。住民参加の取り組みを町主導で展開してほしい。

園町のどこでもフリージアの花が見られるように、住民参加で道路わきの狭い土地やプランターに植栽し、全島的なイベントにするべきだ。

答 産業観光課主幹 インファイオラータは住民参加でできた。名古屋の展望やえこあぐりまーとは植栽している。今年度は町役場やふるさと村など町の施設に植栽する。

園プランターなら住民参加も可能だと思っが。

答 球根の確保も必要なので来年度に向けて努力したい。



フリージアまつりオープニングセレモニー

園イベント会場の休憩舎の拡充、散策路の設置、農業普及センターの開放を。

答 休憩舎の拡充の予定はないが、コンテナを置いて対応したい。農業普及センターの開放は日時を特定し、ガイドつきであれば可能。散策路については今後検討したい。

園 普及所の開放はガイドツアーでぜひ実現していただきたい。会場にパラソルやベンチを増やしゆっくり休める場所を提供してほしい。

答 パラソルなどを増やすこ

とは今年度の実施にむけ検討したい。

園 行政キャラバンは「無駄遣いだ」という批判が多く、改善策を講じるべきだと思っが町の考えは。

答 町長キャラバンも花の量も訪問する場所も年々減らしている。

園 削減の努力は認めるが、同行するのはフリージア娘と町長、議長で十分ではないかと思っが。

答 町長 不愉快だ。不要というならすべてやめてしまえばいい。日頃のお礼というのは建前で、そろって訪問することの意味は大きい。常任委員長としての役割を認識すべきだ。

第6期介護保険事業計画に向けて町は何をすべきか

答 日常生活圏域ニーズ調査などを実施し具体策を考える

園 来年度事業に向け、まずは地域の特性に応じたニーズの把握が必要だと思っが町の具体策は。

答 福祉健康課課長補佐 在宅サービスの充実のために中長期的な視点が必要と考える。今年度は日常生活圏域ニーズ調査を実施し、毎年民生委員による高齢者実態調査も行っているので、それをまとめて具体策を考えていく。

園 制度設計の準備や人材の確保についてはどう解決する考えか。

答 2025年を目途に保険料を推計し、国の基準に沿って設計する。人材の確保については、ボランティアなどで介護保険以外のサービスの提供、初任者研修の開催などで考えていきたい。

クリーンセンターの施設更新を

答

本年度より3カ年で用地を選定し、平成36年度の供用開始を目指す



山下 崇 議員

◆ 所要時間 12分

平成36年度の供用開始を目指したクリーンセンター更新の計画が始まった。人口減少は既定路線であり、これまでと同等の施設が必要なのか、焼却量の減少にもなって埋却される焼却灰も減少していく。先日、茨城県鹿島市の衛生センターにおいて稼働中の次世代型廃棄物処理装置を視察した。これはいわゆる焼却炉ではなく、熱分解炉といわれる物で、視察した炉は5ト炉で非常にコンパクトな物であった。画期的なのは、いわゆる焼却灰が発

生せず、ほぼセラミックと木酢液が出るのみということであった。導入にかかる費用も5ト炉2基で5億円程度で、ランニングコストも1基あたり電気代が4万円程度とのことである。この内容を踏まえて次のことを伺う。

■ 最終処分場の稼働見込みについては、平成26年6月末で埋め立て量の5%となっていることから、当初の予定の17年から延命可能である。

行い、一般廃棄物処理計画を策定した。現在一日17ト炉であるが、12ト13ト炉を予定している。具体的な処理方法は決定しておらず、提案された熱分解炉も含めて検討していく。

■ 最終処分場の埋め立て状況と埋め立て可能な年数に増減があれば回答を。

■ 最終処分場の埋め立て状況と埋め立て可能な年数に増減があれば回答を。

■ 最終処分場の埋め立て状況と埋め立て可能な年数に増減があれば回答を。

■ 最終処分場の埋め立て状況と埋め立て可能な年数に増減があれば回答を。

■ 最終処分場の埋め立て状況と埋め立て可能な年数に増減があれば回答を。



八丈島一般廃棄物管理型最終処分場

地域に即した危険箇所の設定は

答
28年度以降「土砂災害警戒区域」指定の準備を予定



岩崎 由美 議員

◆所要時間 27分

ている。

問「土砂災害危険箇所」指定の根拠は。

想定外という気象災害が今後普遍化することが予想されているが、行政の最も大きな使命は住民の命を守ることである。

問災害が予想されるが、発生した場合の避難勧告、避難指示の流れは。日常的なモニタリングは行っているか。

答総務課長 大雨注意報では市内で情報連絡ができる体制を整え、警報では避難勧告の判断ができる体制をとる。モニタリングは行っ

問島内104カ所の土砂災害危険箇所（急傾斜崩壊危険箇所、土石流危険箇所、地滑り危険箇所）は地形図、航空写真と現場

の状況と人家等に被害の恐れがある場所を考慮し図示したものの。

問上記のような災害情報は、町民にどのよう周知されるか。クリーンデーなどの機会の活用



八丈町防災マップ

を。

問ハザードマップの全戸配布。付近にはどんな危険があるのか、確認をして頂きたい。機会を捉えてこちらからも説明していききたい。

問現在の指定箇所以外にも危険な場所があると思われるが、過去の災害記録を参考にする必要があるので

問過去の災害についても考慮したい。平成28年度以降、八丈町でも各調査を踏まえ土砂災害警戒区域の指定に入る準備をする予定。東京都と調整をしながら進めていく。

人財育成の課題を克服するには

答よい人財を採用。組織的な役割の認識を促す。

24年度以降「八丈町人財育成方針」を策定し研修を実施していることについて伺う。

問平成24年から実施している研修の効果は。

答総務課長 入庁3年以下の職員が各課各係において活躍する場面が多くなってきた。組織の課題について、職員、各課から改善策を提案してもらい、それを具体化して機構改革に反映させている。職員自らが考え、自らが機会を作って

色々と環境を変えていくということを実践したいという例で、人財育成方針に基づいて実践している効果のひとつと考えている。

問現在の課題は何か。

答個々人のストレス耐性が、組織的には大きな課題となっている。昇任等に関する積極性等の問題、人員配置の困難性が際立っている事が組織的な大きな課題。業務負荷がかかり政策課題に対するスピード感が不足している。

問有能な人たちが辞めていかないよう、課題に対する今後の改善策は。

答人員配置の困難性については採用試験をうまくやって、よい人財をとっていくという地道なことをやっていくしかない。昇任試験については、各所属の長が組織的な職員の役割を認識させて試験を促すことに取り組んでいる。

高齢者の孤立対策は

答

行政だけでなく地域の方々の協力が不可欠である



菊池 睦男 議員

◆ 所要時間 60分

〔答〕福祉健康課課長補佐 事業所より変更に関する報告は受けていない。また各事業所でサービス提供に関する削減等はない。

〔問〕冒頭のような具体例を把握しているのか。そういう悲惨な事例を無くすためには、どのような施策が必要であり、どうしようと考えているのか。

今夏、老夫婦のご婦人が死後発見されたり、老婦人がいたましい不遇な死を遂げた。いずれも独居老人であったり、老々介護の共通した状況がみられる。安倍政権は「社会保障制度改革プログラム法」を可決成立させた。この法案は医療、介護、年金などあらゆる分野で国民に負担増と給付削減を求める内容である。

〔問〕26年度より介護事業のサービス提供が変更、後退、削減されたケースはどのようなものがあるのか。



〔答〕高齢者が地域で孤立しない対策をいくつかとっているが、行政だけではなく地域の方々の協力が不可欠であり、社会福祉協議会、民生委員、自治会などと協同しての構築に取り組む。

〔問〕「高齢者等サービス検討委員会」はどのように機能し、役割を発揮しているのか。

〔答〕職員内部の検討会であり、高齢者実態調査やハンドブックの内容を検討する際に開催している。

〔問〕八丈町長寿ハンドブックは一部で好評との指摘もあるが、読解力のある人でなくては分かりづらい。レイアウトや編集にも力点を置き、カラー版にし、お年寄りにわかりやすい、座右の書になるような改訂版にする考えはないか。

〔答〕介護保険制度が変わるタイミングで見直しを考えた。作成にあたり老人クラブの意見を伺い、分かりやすいものを作成したい。

● こんな質問もしました

〔問〕汚泥処理センター事業について

〔答〕合併浄化槽設置目標が当初目標より後退しているが。

〔問〕新計画では現実に即した見直しを行った。

〔答〕建築基準法や東京都条例などに島の実態にそぐわない面があり、事業が進まないと考えながら、規制緩和を働きかけたのか。

〔問〕状況により東京都に規制緩和を求める。

〔答〕カラー版のわかり易いガイドブックを作成することなどであったが進捗状況は。

〔問〕現在の白黒版のカラー化や掲載内容は機会に心し検討する。

〔問〕永郷地区にソフトバンクの携帯電話のアンテナが建設されたが機能していないのでは。

〔答〕供用開始はこれから。

〔問〕一般廃棄物管理型最終処分場について（島嶼一部事務組合（以下、一組）に問い合わせでの回答）

〔答〕最終処分場運営協議会要綱が改定されたが、一組職員である町長が知らなかつた。

た。八丈町議会無視。一組事務局独走ではないか。

〔問〕改定は一組を構成する各町村を代表する管理者の権限に属する。

〔答〕住民に開かれた民主的な「処分場」の管理、運営に努めるべき。

〔問〕行政代表と住民代表で構成する運営協議会を設けている。

〔答〕汚水が漏水した時の検知システムは機能しているか。

〔問〕汚水の漏洩はないと認識。処分場における問題はな

い。

〔問〕固化事業により帯水層が破壊されたことは工事の失敗と考えるが責任の所在は。新しい検知の手段を講ずるべきでは。

〔答〕地盤を改良した結果、より安全性が高まったと認識している。

〔問〕環境基本法に基づいた公害防止協定を一組、行政、地域住民間で結ぶべきか。

〔答〕協定を結ばなくても議会を通して住民の意向が反映される仕組みになっている。

〔問〕町議会に地下水の件と危機管理について説明するべきか。

〔答〕議会への説明を求める。

行政視察レポート

北海道下川町

木質バイオマスエネルギー利用の町、下川町の視察を終えて



期間 平成26年7月1～3日

視察者 菊池良、岩崎由美

廣江才、水野佳子

菊池睦男、山口英治

沖山宗春、長戸路義郎

土屋博、小澤一美

北海道の下川町において、バイオマス利用の実態調査のための行政視察をおこなった。

現在、下川町は林業の停滞や少子高齢化、鉄道の廃線などにより人口減少に拍車がかかり、人口3500人にまで落ち込んでいる。また、町内の一の橋地区においては人口流出が著しく、昭和35年2058人から平成26年には139人を数える現状である。町は危機感から年度予算に匹敵する買収金額を組み、国有林の払い下げを実行、循環型森林経営による安定的な経済基盤と雇用の確保を目指し

た。

林業の振興、雇用対策として、建材、おが粉（おが屑）、木工品、土壌改良剤、化粧水等と幅広く生産している。また、倒木、流木材などを乾燥させ、粉碎チップ化による木質バイオマスエネルギーを利用し、地域別一括方式による公共施設の熱エネルギー6割を供給している。特に一の橋地域では住宅の集合化を図り、暖房はもとより温室の熱エネルギーの地域一括供給を行っている。注目すべき点は、下川町が近い将来、公共施設の暖房を木質バイオマスエネルギーのみで行う目的を掲げ、実行しようとしている点である。その原木供給のため、成長著しい柳の植樹を検討し実行している。

われわれ議員団の視察の目的は八丈町における木質バイオマスエネルギーの可能性である。もちろん

自然再生エネルギーを考える

八丈町では、現在拡大を予定している地熱発電の副産物である廃熱を活かした産業を検討しているが、そのひとつがバイオマスの活用だ。「バイオマス」とは「ある場所が存在する生物資源量」。木質のみならず、有機汚泥や生ゴミ、伐採木や刈り払われた草などはすべてバイオマスであり、それを熱、メタン、エタノールなど様々なものに交換することによって自然再生エネルギーが得られるのだ。ちよつとさぼると草だらけになってしまう八丈島は、実はバイオマスの宝庫ともいえるだろう。

下川町では、木質バイオマスポイラーの導入による年間約1600万円のコスト削減分は、中学生までの医療費無料化や子育て支援事業などの住民福祉およびバイオ

マス施設の経費に充てているという。重油などを施設に提供していた石油組合の圧迫を回避するため、エネルギー供給組合を作るなどの取り組みも興味深い。再生可能エネルギー事業での課題は需要と供給のコストバランスともいえる。供給率を上げるためには現在の資源だけでは足りないため、成長の早いヤナギの育成も実施。今後は発電事業にも取り組むとのことだった。現在の公共施設への熱源エネルギー供給は4割以上となっている。

今回の視察にご対応いただいたのは、下川町環境未来都市推進課、一般財団法人下川町ふるさと開発振興公社クラスター推進課、NPO法人しもかわ観光協会のみならず、年間の視察者は1500人も上るそうだ。最も強く印象に残った事のひとつは、開発振興公社

ん、八丈島の8倍の森林面積を有する下川町の考え方をそのまま導入することは不可能である。むしろ、われわれは廃棄物の処理の有効利用としてバイオマスを捉えるなら確かに可能性はあると思う。

八丈町は雑木、倒木などの処理費用に多額の税金を投入している。単なる乾燥チップ化によるバイオマスという捉え方ではなく、



下川町役場周辺地域熱供給システム施設

廃材、ヤシ植物の枝葉などを含め、新たなバイオマスの研究に取り組み、環境の面からも重要な事業である。エコの島を目指す八丈町にとって小規模であろうとも可能性を追求することは、その理念に見合うものだと考える。

報告者 廣江 才

の方の活躍だった。新しい事業に取り組み際の成功の可否は、確かに予算もあるのだろうか。実は人が担っているのだろうか。まちづくりは、内外の人々を活かすことであ

り、行政はその機会を積極的に作るべきだと強く感じた。

報告者 岩崎 由美

第3回定例会の質疑から

平成26年9月3、4日開催

- ◎ 島外医療機関通院交通費補助金を手厚く
- ◎ 町営住宅の家賃が上がらないような対策を
- ◎ 旧末吉小学校の利用方法は決定したのか
- ◎ 物流センターの建て替え計画は
- ◎ 病院からFAXで院外薬局に薬が注文できるサービス導入を
- ◎ 消防無線や携帯電話アンテナの鉄塔を統合できないか
- ◎ スポーツ合宿サポーター業務委託とは
- ◎ ミ・ポインツの増加を
- ◎ 老人保健施設が必要では
- ◎ 新庁舎へのバスの乗り入れ時期とバス停の場所は
- ◎ 白内障手術の実績と待機者数は
- ◎ 簡易水道事業と上水道事業統合について住民に説明を

意見書の提出

憲法解釈の変更による集団的自衛権の行使容認の閣議決定に反対し、撤回することを求める意見書

提出者…岩池陸男

賛成者…岩崎由美 廣江才 奥山幸子

原案否決

町ナビ

11月1日の町制施行60周年記念式典で、「子ども議会」が開かれた。町ホールの舞台向かって右側に中学3年生から選ばれた14人の議員が、左側には山下町長ら町執行部が並び、審議がスタートした。中学生議員からは「島の伝統文化を若い世代が引き継ぐ機会をつくってほしい」「八高に水産科を新設し若い漁業者の育成を」「八高に島外からの生徒を受け入れては」など、学生の視点からの提案が出された。



主な議決事項

● 8月臨時会 平成26年8月8日開催

● 八丈町教育委員会委員の任命の同意について
● 檜立中之郷線道路改良工事請負契約
ほか契約2件

● 9月定例会 平成26年9月3、4日開催

● 八丈町固定資産評価審査委員会委員の選任の同意について
ほか同意1件

● 平成26年度八丈町一般会計補正予算
ほか補正予算6件

● 八丈町消防長の資格を定める条例

● 消防救急無線デジタル化工事請負契約

● 平成25年度八丈町水道事業会計決算認定
ほか決算認定2件

● 10月臨時会 平成26年10月28日開催

● 八丈町消防委員会委員の選任について
● 八丈町監査委員の選任の同意について

● 全員協議会 平成26年8月8日開催

● 新しい三根公民館の建設場所等について
● 町制施行60周年記念事業の町歌について
● ちよんこめグループホームについて

● 各種委員会委員の選任について 平成26年10月28日開催

● 総務文教委員会 平成26年10月28日開催
● 経済企業委員会
● 正副委員長互選

編集後記

10月19日執行の八丈町議会議員選挙も終わり、新しい顔ぶれで今期もスタートしました。

現職2名が落選、新人全員が当選するという激しい選挙戦となりましたが、争点も無く関心の低い選挙となった事は投票率の続落が物語っています。

しかし、東京の離島としてオリンピックを控えたこの時期は、今後の町政に非常に大切な期間となります。議会も改革を進め、町民の付託

に答えなければなりません。

女性の社会参画が求められる昨今、指導的立場に女性の力が必要です。残念ながら、町には女性の管理職はいません。

今回の議会人事では、町政史上はじめて女性の副議長も誕生しました。

今後、町政が前に進む原動力となる議会を目指し14人が一丸となって取り組んでまいります。

山下 崇

発行人 八丈町議会議長 土屋 博

編集 議会だより編集委員会 委員 山本忠志 山下 崇 岩崎由美 奥山幸子

〒100-1498 東京都八丈島八丈町大賀郷 2551-2 tel 04996-2-2788 fax 04996-2-5575